

北海道東部、釧路市春採湖の鳥類

橋 本 正 雄*

Birds of Lake Harutori in Kushiro,
Eastern Hokkaido

Masao HASHIMOTO*

Abstract

A twenty-three year bird survey in the Lake Harutori in Kushiro City has been executed during May, 1971–December, 1993.

The study area is located in the center of Kushiro City having a population of 200 thousand, and abuts on the coast of the Pacific Ocean. The habitat included a reed shallow, wooded hill and grassy hill.

A total of 153 species of birds was recorded and 29 species had bred during the study. The number of species fluctuated a high of 72 in May to a low of 21 in January, and was higher in summer than in winter.

They could be grouped into 61 summer visitors, 34 residents, 29 winter visitors, 25 transients and 6 strayers.

はじめに

春採湖は北海道東部の20万都市・釧路市の中心部近くに位置している湖周4.85kmをもつ天然の湖である。ギンブナが遺伝子の突然変異を起こして生じたところのヒブナが生息し、1937（昭和12）年に「春採湖ヒブナ生息地」として国の天然記念物に指定されている。

湖畔は都市公園として散策路が整備されており、また釧路市立博物館、釧路市青少年科学館などがあり、釧路市民の憩いの場となっている。ホシハジロの日本唯一の繁殖地であるほか、カイツブリ、マガモ、オオバン、バンなどの水鳥が繁殖するなど多くの野鳥の生息地であり、市民の良き採鳥の場所ともなっている。

筆者は、1971年5月以来、春採湖で野鳥の観察を行ってきた。ことに1983年11月に勤

務先である釧路市立博物館が同湖畔に建設されてからは、館の研究室から湖の南側半分をほぼ見渡すことができることもあり、毎日何らかの形で春採湖の野鳥を観察できる状況となり、今日に至っている。

本報文では、筆者が1971年5月から1993年12月までの間に春採湖で生息を確認した鳥類について、その生息状況の概略を報告するものである。

なお、日本野鳥の会釧路支部会員の方々に、鳥の生息情報の提供等のご協力をいただいたことを明記して感謝申し上げます。

調査地の概要

春採湖は北緯42度58分、東経144度24分にあり、釧路市街のほぼ中央部に位置している。標高30m内外の台地の間にS字状を呈して、ほぼ北東－南西方向に細長くのび、南西部は

* 釧路市立博物館 (Kushiro City Museum, Kushiro, Hokkaido)

幅300mほどの低い砂浜で海岸と分かれている。湖の周囲は4.85km、表面積は364,000m² (36.4ha)、湖面の標高は約70cmで、最深は5.8mである。

湖を取り囲む台地上は、ほぼ全域が住宅地となっている。湖の北部の西岸台地斜面は、幅約200m、長さ約400mの広がりをもつ雑木林となっており、ミズナラを主体にイタヤカエデ、ナナカマド、エゾヤマザクラ、ハンノキなどが生育している。この地域以外の台地斜面はエゾミヤコザサ、オオイタドリ、オオヨモギなどの草原となっており、樹木ではツルウメモドキやエゾニワトコなどの低木が散在するのみである。湖岸のほぼ全域にはキタヨシが群生しており、ことに湖の北部の東岸部には最大幅300mほどの広いヨシ原となっている。湖は6～8月の夏場には海から移流してくる濃い霧に覆われることが多く、また12月上旬から4月上旬までは湖面全域が結氷する。

る。

湖の北部の西岸部を中心に、湖畔の69haが都市公園「春採公園」となっている。湖岸には一周の散策路があるほか、ネイチャーセンターや野鳥観察施設などが設けられている。

調査方法

筆者は春採湖の鳥類生息状況について、生息数の把握までを含めた定期的な調査は行っていない。ただ、勤務先である釧路市立博物館が春採湖畔にあることから、日常的観察は通年可能となっている。また、釧路市立博物館は日本野鳥の会釧路支部と共同して、1976年いらい毎年4～11月の期間で月に1回の採鳥会を同湖畔で開催しており、筆者も毎回参加してきた。

なお、本報文で用いた鳥類の和名、学名、配列順序は日本鳥学会編纂の日本鳥類目録

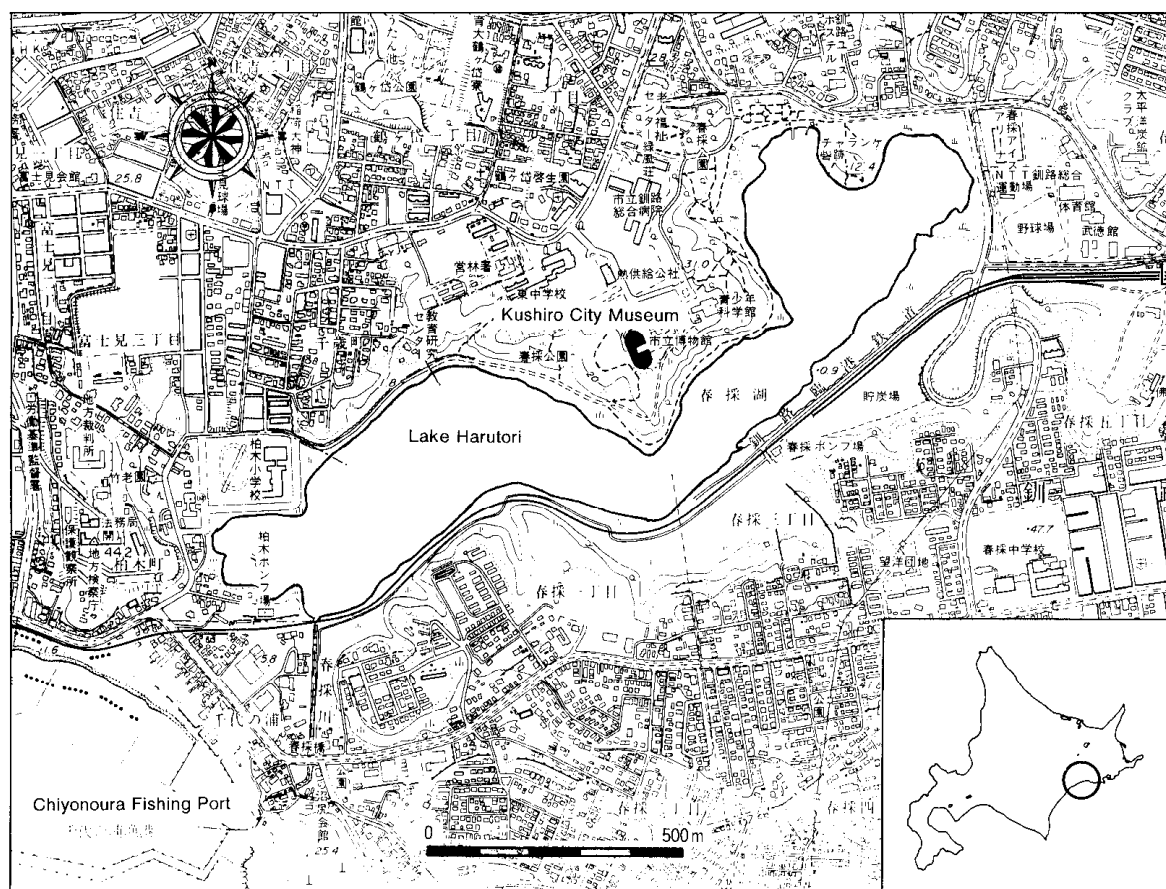


Fig. 1. Map showing Lake Hrutori.

(改訂第5版—1974—)によった。

鳥の移動習性については、次のような区分を用いた。

留鳥 (R) : 釧路地方において留鳥であるが、春採湖での繁殖記録のない種。

留鳥 (R) : 釧路地方において留鳥であり、春採湖で繁殖した記録のある種 (営巣の段階で終わった場合も含む)。

夏鳥 (S) : 釧路地方において夏鳥であるが、春採湖での繁殖記録のない種。

夏鳥 (S) : 釧路地方において夏鳥であり、春採湖で繁殖した記録のある種 (営巣の段階で終わった場合も含む)。

冬鳥 : 釧路地方において冬鳥である種。

旅鳥 : 釧路地方において旅鳥である種。

迷鳥 : 釧路地方において迷鳥である種。

鳥の出現状況については、次のような区分を用いた。

頻度 (F) : 春採湖において頻繁に出現する種。

頻度 (C) : 春採湖において普通に出現する種。

頻度 (U) : 春採湖において稀に出現する種。

頻度 (V) : 春採湖において極めて稀に出現する種。

調査結果

1971年5月から1993年12月の間に、筆者が春採湖で生息を確認した鳥は、39科153種となっている (Table 1) が、アジサシとアカアシアジサシ、ツグミとハチジョウツグミの同種異亜種を含み、亜種数では155となる。ちなみに、現在日本で生息が記録されている鳥は約580種であり (Brazil 1991)、また釧路管内では298種の鳥の生息が確認されている (日本野鳥の会北海道ブロック支部連合協議会 1991)。

なお、これからの記述においては、同種であるアジサシとアカアシアジサシ、ツグミと

ハチジョウツグミをそれぞれ別種と同等の扱いとして、春採湖の生息確認種類数は155種として優占率等を算出した。

1. 出現種の季節的变化

月別の出現種類数を見ると、5月が72種と最多となり、夏場にはやや減少し、その後10月には70種と第二のピークを示している (Table 1, Fig. 2)。

移動習性区分から出現種類数をみると (Table 1~3, Fig. 3)、夏鳥が夏鳥 (S) でアオサギ、オオジシギ、アオバト、オオルリなど41種、夏鳥 (S) でカイツブリ、ノビタキ、コヨシキリ、コムクドリなど20種であり、夏鳥 (S+S) では61種 (39.4%) となっている。夏鳥 (S+S) は4月に入ると21種と急増し、5月が36種でピークとなり、その後10月の21種まで漸減している。また2月の厳寒期にセグロセキレイ、ミソサザイ、コカワラヒワが出現している。

留鳥は留鳥 (R) でオジロワシ、オオセグロカモメ、エゾアカゲラ、ミヤマカケスなど25種、留鳥 (R) でマガモ、ホシハジロ、ハシブトガラ、ハシボソガラスなど9種であり、留鳥 (R+R) では34種 (21.9%) となっている。また、留鳥 (R+R) は10・11月が25種、4月が21種と多くなっており、夏場と厳寒期には減少している。

冬鳥はオオワシ、ワシカモメ、キレンジャク、ツグミなど29種 (18.7%) が出現しているが、4月が17種、10・11月が15と16種と多くなっており、また夏場にもキンクロハジロ、スズガモが出現している。

旅鳥はツルクイナ、アオアシシギ、ユリカモメ、エゾビタキなど25種 (16.1%) が確認されており、5・9・10月には8~9種が出現している。

迷鳥はコグンカンドリ、チュウダイサギ、セイタカシギなど6種 (3.9%) となっている。

2. 出現頻度

各種の出現頻度をみると、頻度 (F) の種

Table 1. Occurrence of species in L. Harutori in each month, 1971—1993.

List No.	Species	Status	Month											
			J	F	M	A	M	J	J	A	S	O	N	D
1	アビ	T	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○
2	シロエリオオハム	T	—	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—
3	カイツブリ	S	—	—	○	○	—	○	—	○	—	○	○	—
4	ハジロカイツブリ	T	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	—
5	ミミカイツブリ	T	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	—	—
6	アカエリカイツブリ	S	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	—
7	ハイイロウミツバメ	W	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—
8	コシジロウミツバメ	S	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—
9	ウミウ	S	—	—	—	○	—	—	—	—	○	—	○	—
10	ヒメウ	R	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	○	—
11	コグンカンドリ	St	—	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—
12	アマサギ	St	—	—	—	—	○	—	—	—	○	—	—	—
13	チュウウダイサギ	St	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—
14	チュウサギ	St	—	—	—	—	○	—	—	○	—	○	—	—
15	アオサギ	S	—	—	—	○	—	○	—	○	—	○	—	—
16	コクガン	T	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○
17	オオハクチョウ	W	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	○	○
18	オシドリ	S	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—
19	マガモ	R	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20	カルガモ	S	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
21	コガモ	W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
22	ヨシガモ	W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
23	オカヨシガモ	T	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
24	ヒドリガモ	W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25	オナガガモ	W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
26	シマアジ	T	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
27	ハシビロガモ	T	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
28	ホシハジロ	R	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
29	キンクロハジロ	W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30	ズズガモ	W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
31	ビロードキンクロ	W	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

Table 1 (continued)

[illegible]

Table 1 (continued)

[illegible]

Table 1 (continued)

[illegible]

Table 1 (continued)

* R : resident in Kushiro district S : summer visitor in Kushiro district
W : winter visitor in Kushiro district T : transient in Kushiro district St : strayer in Kushiro district
(Underlines indicate species that have bred in L. Harutori.)
** F : fairly common in L. Harutori C : common in L. Harutori U : uncommon in L. Harutori
V : very uncommon in L. Harutori

北海道東部、釧路市春採湖の鳥類

がキンクロハジロ、オオバン、ショウドウツバメ、シジュウカラなど29種 (18.7%)、頻度 (C) がコガモ、キジバト、モズ、シメなど30種 (19.4%)、頻度 (U) がアビ、シマアジ、ケアシノスリ、エゾフクロウ、カワセミ、ベニヒワなど82種 (52.9%)、頻度 (V) がハイイロウミツバメ、コクガン、エゾライチョウ、ミヤマホオジロなど14種 (9.0%) となっている (Table 1.3)。ハイイロウミツバメ

は冬期釧路地方の沿岸に少数飛来するが、春採湖では1989年7月16日と夏期に出現したものである。

さらに移動習性と出現頻度の関連をみると、春採湖で繁殖する鳥は留鳥 (R) では9種全部が、夏鳥 (S) でも20種中の12種 (60%) が頻度 (F) である。総体的に頻度 (U) の鳥が50%以上を占めているわけであるが、ことに夏鳥 (S) で80%、旅鳥で72%と高い比

Table 2. Number of species of seasonal species groups recorded in months.

	Month											
	J	F	M	A	M	J	J	A	S	O	N	D
R	6	8	4	12	5	2	3	4	8	16	16	12
<u>R</u>	8	8	9	9	9	9	10	9	9	9	9	9
subtotal	14	16	13	21	14	11	13	13	17	25	25	21
S	0	2	1	11	19	17	11	11	10	13	10	3
<u>S</u>	0	1	3	10	17	18	19	17	15	8	4	2
subtotal	0	3	4	21	36	35	30	28	25	21	14	5
W	6	5	5	17	9	3	3	2	6	15	16	12
T	1	2	2	4	8	5	2	2	9	8	6	3
St	0	0	0	0	5	0	0	2	1	1	0	0
Total	21	26	24	63	72	54	48	47	58	70	61	41

R : resident in Kushiro district

R : resident in Kushiro district, having ever bred in Lake Harutori

S : summer visitor in Kushiro district

S : summer visitor in Kushiro district, having ever bred in Lake Harutori

W : winter visitor in Kushiro district

T : transient in Kushiro district

St : strayer in Kushiro district

Table 3. Number of species of seasonal species groups, arranged by types of occurrence.

	F	C	U	V	Total
R	2	6	15	2	25 (16.1%)
<u>R</u>	9	0	0	0	9 (5.8)
S	2	4	33	2	41 (26.5)
<u>S</u>	12	7	1	0	20 (12.9)
W	3	10	15	1	29 (18.7)
T	1	3	18	3	25 (16.1)
St	0	0	0	6	6 (3.9)
Total	29 (18.7%)	30 (19.4)	82 (52.9)	14 (9.0)	155

see Table 1, 2

率を示している。

3. 繁殖状況

巣づくりの段階で終わった種も含めて、春採湖で繁殖が確認できた鳥は29種（19%）である。このうち、1975年に初めて繁殖が確認されたホシハジロのほか、カイツブリ、マガモ、バン、オオバン、ハクセキレイ、モズ、ノビタキ、ノゴマ、エゾセンニュウ、シマセンニュウ、コヨシキリ、シジュウカラ、アオジ、オオジュリン、コカワラヒワ、スズメ、コムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラスの20種はほぼ毎年繁殖している。

前田・福士（1993）は、1991・2年の水鳥の繁殖状況を報告しているが、それによると

カイツブリ	(9番い・6番い)
マガモ	(6・17)
ホシハジロ	(0・5)
バン	(1・0)
オオバン	(26・13)

となっている。

トビは1985年に1番いが営巣したが、産卵までには至らず、その後は繁殖していない。ショウドウツバメは1982年まで毎年湖岸の崖地で営巣していたが、しかしそれ以後は採餌には多数の個体が飛来するのだが造巢可能な場所の消失により繁殖は途絶えている。

1984年に、日本野鳥の会釧路支部は春採湖畔にシジュウカラとコムクドリ用の巣箱の設置を行い、その後も、同支部のほかに釧路市公園緑政課などにより巣箱の設置が継続されている。その結果、毎年、シジュウカラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラ、コムクドリが巣箱を利用しており、また、1992年にはアリスイとニュウナイスズメが巣箱を利用して初めて繁殖した。

4. 特記すべき生息記録

春採湖のみならず、北海道としても極めて稀な鳥として、次のような種が出現している。

- ・コグンカンドリ（1981年8月11日、1羽）

本種は、夏期に釧路の沖合に稀に飛来す

るようである。

- ・チュウダイサギ（1984年5月21日、1羽）

本種のほかにアマサギやチュウサギも春採湖に飛来しているが、これらのサギ類は近年では毎年のようにごく少数のものが釧路地方で観察されるようになっている。

- ・セイタカシギ（1983年5月15日、1羽）

- ・ミヤマホオジロ（1993年5月16日、♂1羽）

考 察

1971～1993年の23年間に、釧路市春採湖で39科153種の鳥の生息が確認された訳であるが、現在、日本に生息する鳥は約580種であり、北海道に限ると約400種、釧路管内では約300種ということからみて、153種という出現種類数は20万都市の市街地に位置する場所での記録としてはかなり高い値と考えられる。

これは、市街地の湖としては珍しく岸の大部分が厚いヨシ帯で覆われ、また湖を取り囲む台地斜面が雑木林や灌木を交えた草地などとなっており、さらには海岸に接するように位置することなどから、森林性、草原性、移水帯性、内水面性、外(塩)水面性などの多様な生態タイプの鳥の生息が可能であることによる。それは出現種の構成からも裏付けられている。

しかし、市街地内の湖沼ということで繁殖が確認できた種は29種に止まり、ほぼ毎年繁殖する種となると20種に過ぎない。また、出現頻度をみても、春採湖では出現が稀な種が82種と52.9%を占めており、多くの鳥にとって春採湖は通過地となっている。

摘 要

1. 1973年から1993年の23年間にわたる、北海道東部の釧路市春採湖における鳥の観察の結果、39科153種の鳥の生息を確認した。
2. 月別の出現種類数は5月が72種と最多となり、ついで10月の70種であった。
3. 釧路地方では夏鳥である鳥が61種

(39.4%)と最も多く、留鳥が34種(21.9%)、冬鳥が29種(18.7%)、旅鳥が25種(16.1%)、迷鳥が6種(3.9%)となっていた。

4. 春採湖における出現頻度では、頻繁に出現する鳥が29種(18.7%)、普通に出現する種が30種(19.4%)、稀に出現する種が82種(52.9%)、極めて稀に出現する種が14種(9.0%)となっていた。
5. 29種(18.7%)の繁殖が確認され、そのうちの20種はほぼ毎年繁殖していた。
6. 北海道としても極めて稀な種であるコゲンカンドリ、チュウダイサギ、セイタカシギ、ミヤマホオジロが観察された。

引用文献

- Brazil, M.A. 1991. The birds of japan. Helm. London. 466pp.
- 橋本正雄 1971. 春採湖の野鳥. 釧路市立郷土博物館館報. 211: 9-10.

- 橋本正雄 1981. 釧路管内鳥類観察記録(1). 釧路市立郷土博物館紀要. (8): 47-58.
- 橋本正雄 1982. 釧路管内鳥類観察記録(2). 釧路市立郷土博物館紀要. (9): 9-18.
- 橋本正雄 1988. 春採湖及び周辺環境保全基礎調査報告書. 釧路市. : 117-128.
- 前田紀子・福士汎一 1993. 1992年春採湖水鳥調査結果報告. 平成4年度春採湖および周辺の環境保全実施のための継続調査報告書. 春採湖調査会. 釧路市.
- 日本鳥学会 1974. 日本鳥類目録-改訂第5版-. 学習研究社. 120pp.
- 日本野鳥の会釧路支部 1984. 春採湖の水鳥生息調査より. 釧路市立博物館館報. 298: 8-9.
- 日本野鳥の会北海道ブロック支部連合協議会 1991. 北海道地域別鳥類リスト. 野生生物情報センター. 268pp.

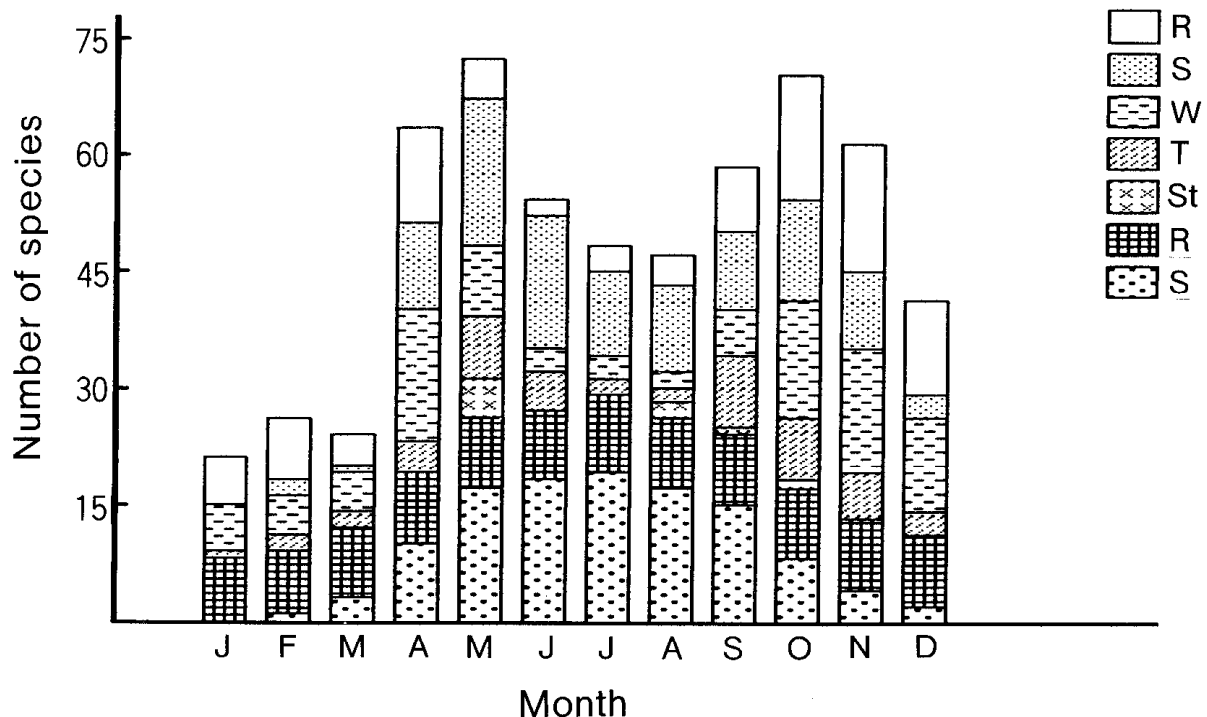


Fig. 2. Seasonal changes in number of species and species composition.
R, R, S, S, W, T, St: see Table 2

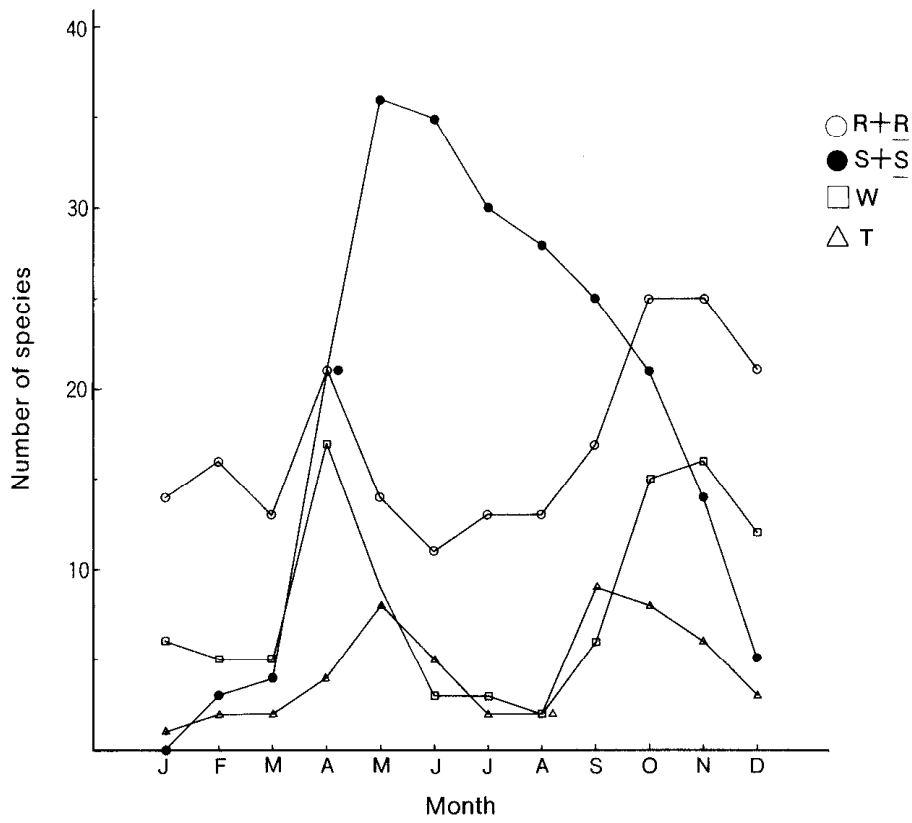


Fig. 3. Seasonal changes in number of species of seasonal species groups.
R, $\bar{R}$, S, $\bar{S}$, W, T, St : see Table 2

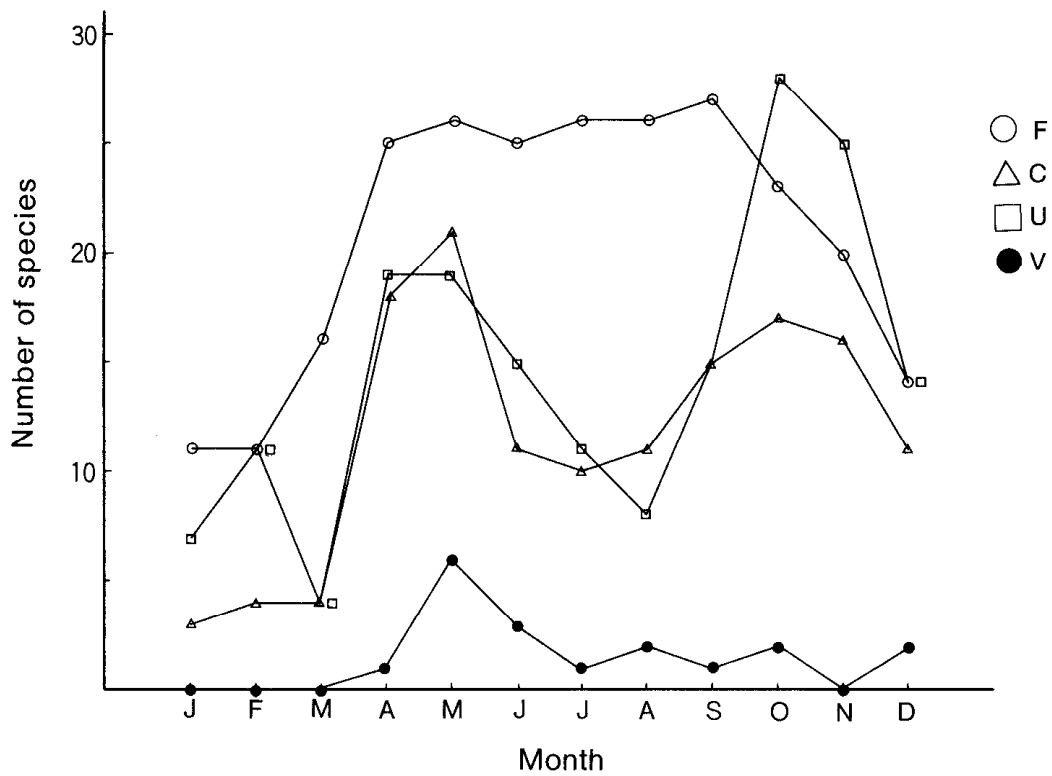


Fig. 4. Seasonal changes in number of species of species groups arranged by types of occurrence.
F, C, U, V : see Table 1